

令和 8 年 1 月 8 日

松阪市議会議員 濱口高志様

小川朋子

## 研修報告書

現在政治研究会【健康問題と日本の歴史の現在地を学ぶ二日間】

1 日目：【四日市：健康問題と現在地】

開催日：令和 7 年 12 月 26 日（金）（1 日目のみ参加）

会 場：四日市地域総合会館あさけプラザ（四日市市下之宮町 296-1）

主催者：【現在政治研究会】 伊勢から日本を元気にする会

コーディネーター：伊藤昌志

参加者：8 名（三重県内外の市議会議員 他）

目 的：コロナワクチン行政と健康被害対応の最新状況を学ぶ



### 1. コロナワクチン副反応と行政対応の現在地

■2020 年 1 月～新型コロナ禍

①2020 年全国死亡者数 137 万 2,755 人（毎年 2 万人程度増加傾向）

前年より 8,338 人減少、推計値より約 35,000 人減少

…新型コロナは重症化していなかった？（5 類相当・空気感染は重症化率低い）

…致死率の高い 1・2 類相当にした外出自粛は誤りであった？

■2021 年 4 月新型コロナワクチン接種開始（第一次最大接種人数期間：5 月～9 月）

②2021 年全国死亡者数 143 万 9,856 人

前年より 6 万 7,701 人増加、対前年死亡者増加数として戦後最大

■2021 年 12 月 3 回目接種開始（第二次最大接種人数期間：2022 年 2 月～3 月）

③2022 年全国死亡者数 156 万 9,050 人

前年より 12 万 9,194 人増加、対前年死亡者増加数として戦後最大

④2023 年・2024 年も 2022 年同様の傾向

### 2. 厚労省発表のデータの読み解き

※厚生労働省の「予防接種健康被害救済制度」での死亡認定件数 2025 年 1,000 人超え

※厚生労働省専門部会において、副反応として報告された死亡例 2025 年約 2,000 人

※人口統計学上、理由なき死亡者数増加は明らかに異常

・2021 年 4 万人・2022 年 15 万人・2023 年 13 万人・2024 年 12 万人

※少なく見積もっても

・2021 年から 2024 年の 4 年間で、死亡者数が 44 万人多くなっている

※新型コロナウイルス感染症による死亡者数は、コロナ関連死者数としてカウント（今以上に増えない）  
※癌などほかの疾病で大きな変化はない

### 3. ワクチン健康被害の課題・自治体議会ができること

●死亡者数の増加はワクチン副反応しか考えられないのではないか

※予測計算（ハインリッヒの法則 1 : 29 : 300 から）

- ・健康被害認定死亡者数 1,000 人【1】
- ・進達していても認定されない死亡者数 2 万 9,000 人【29】
- ・進達できていない実際の死亡者数 30 万人【300】

●各市町の健康被害認定死亡者数から、実際の死亡者数を算定

※松阪市

- ・健康被害認定死亡者数 3 人（2025 年 7 月 31 日現在）【1】
- ・実際の死亡者数 3 人×300 = 900 人【300】

⇒実際に 2021 年から 2024 年において 800 人程度、人口統計学上、異常に多い。

2025 年 7 月末までで、ちょうど 900 人程度になるのではないか。

※表現方法

「〇〇市の健康被害認定死亡者数は〇人です。

全国の認定死亡者数や実際の超過死亡者数と比較して考えると、  
実際には〇〇〇人の方が、お亡くなりになっていると考えられます」

⇒松阪市

「松阪市の健康被害認定死亡者数は 3 人です。

全国の認定死亡者数や実際の超過死亡者数と比較して考えると、  
実際には 900 人の方が、お亡くなりになっていると考えられます」

●地方自治体で情報収集しておきたいこと

- ①コロナワクチン接種状況（各回接種済み人数・年齢別・接種日・ワクチン種類）
- ②予防接種健康被害救済制度認定者数
- ③超過死亡者数（自治体の人口統計から）

※これらから判明する事実

- ・各自治体の被害状況
- ・製薬企業やロット番号による被害の差

※証拠隠滅されないために、事実を残すことが出来る。

※未来永劫、貴重な事実としてデータを活用出来る。

### 4. ドキュメンタリー鑑賞と討論 【WHO・製薬業界の構造を考える】

コロナ禍に見舞われた社会の光と闇を描いたドキュメンタリー。

2024 年 9 月 28 日、東京・有明で大規模なデモが実施された。横断幕やプラカード、参加者が着用する T シャツには、政府が推奨するワクチンや WHO に対する痛烈な批判が記されていた。

その年、同様の大規模デモは各地で行われていたが、マスコミがその全貌を報道することはなかった。

## 5. グループディスカッション（質疑応答）

・証拠隠滅をさせない、未来永劫に事実を残すためにも、予診票などの保存期間を 5 年から永久にするべきなのではないか⇒実際のカルテなどで残すには大量過ぎて保管場所などの確保が難しい。データで残すのがよいのではないか

・様々なデータを示すのには職員の負担が多く諦めているところがある⇒本日の参考資料（松阪市）は、国などから送られてきたフォーマットを利用していることが多いので、これであれば可能だと考える。

## 5. 所感

現在、健康被害やワクチン接種をめぐり、責任が十分に問われないまま物事が進んでいるように感じる場面が少なくない。そうした現実が、あたかも当然であるかのように受け入れられている社会状況に、強い違和感を覚えた。

一方で、実際のデータに基づく検証は極めて高い説得力を持ち、感情や印象ではなく、データと結果から事実を導く姿勢の重要性を改めて認識した。

加えて、ドキュメンタリーを通じ、WHO や製薬業界、政府、そしてマスコミの在り方について考えさせられた。各地で行われていた大規模なデモが十分に報道されてこなかった現実、情報の伝え方に偏りがあるのではないかという疑念を抱かせるものであった。

過去の薬害被害の反省として建立された厚生労働省の「誓いの碑」の意味を踏まえると、コロナワクチンによる健康被害が続く中で、接種が今も止まらない現状には強い憤りを感じている。

政治に関心を持たない、あるいは持たせないような社会の仕組みを変えていくためには、まず目の前で起きている現実を知り、その背景に政治が深く関わっていることに気づいてもらうことが重要であると強く実感した。